八〇〇号記念誌上展課題　（八月二十二日締切）

資格に関係なくどなたでも出品できます。
優秀作品掲載

・漢字かな交じりの書

習慣は第二の天性なり

(1)半紙タテ・ヨコ自由
(2)落款は余白に調和を工夫し書き入れる
(3)出品料　五四〇円
(4)バーコード券貼付　太枠内の臨昇の隣の空欄に**漢かと記入**　段級は無記入

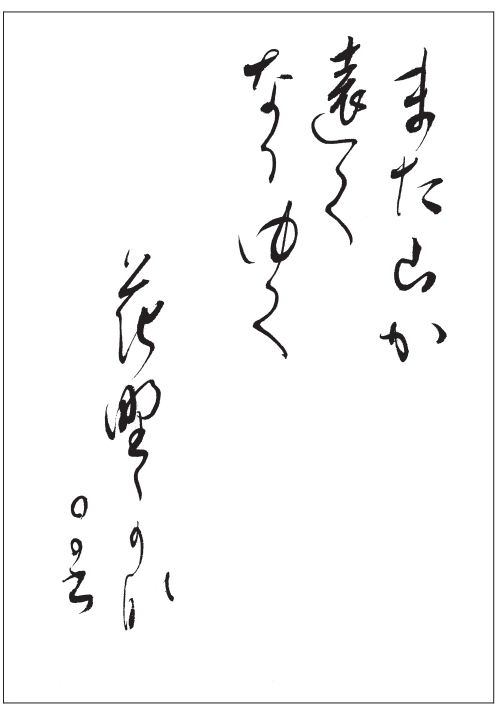
・一字書

福

(1)書体自由
(2)半紙タテ・ヨコ自由
(3)落款は余白に調和を工夫し書き入れる
(4)出品料　四三〇円
(5)バーコード券貼付　太枠内の臨昇の隣の空欄に**一字と記入**　段級は無記入

半紙課題（予告）　（九月二十二日締切）

平岡華雪先生書　時に還（ま）た我が書を読む。（多紀元堅）

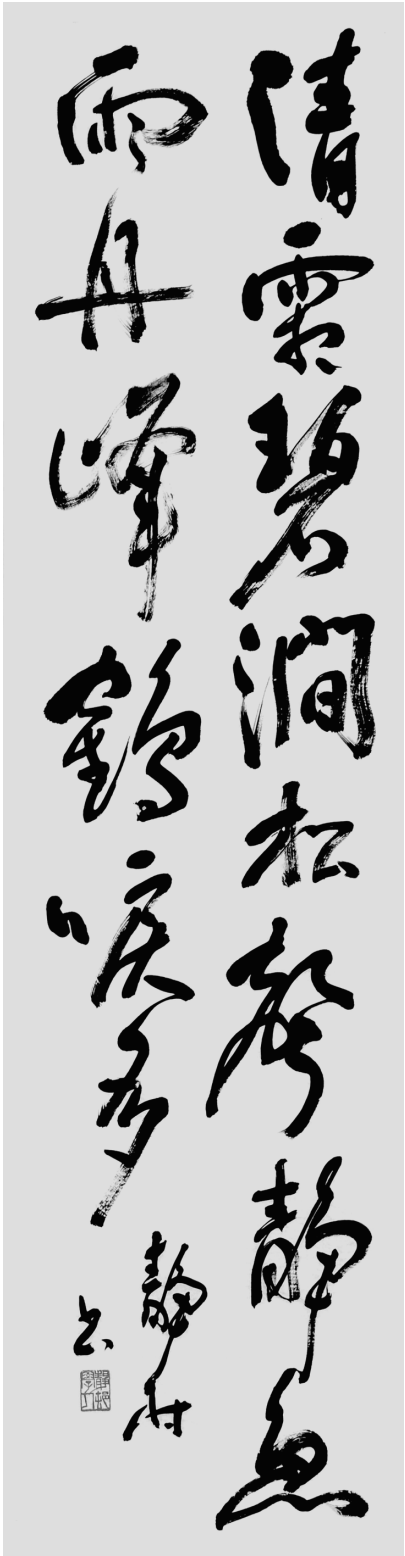


多紀元堅の著書
平岡華雪先生書　また山が遠くなりゆく花野かな（桜坡子）

八〇〇号記念昇試第一部漢字課題　（八月二十二日締切）

A

鈴木静村先生書



清霜碧澗松聲静　急雨丹峰鶴唳多（呉兆騫）
清霜碧澗松声（せいそうへきかん）静かに、急雨丹峰（たんぽうかくい）鶴唳多し。

筆は兼毫筆二号。**清霜碧澗松**、墨量多く、**碧澗**に強め。**松**　小さくとも強調。**聲静急雨丹峰**、**聲**　墨量たっぷりの感。**静**　末画長く**急**に連綿。**急**下部三点リズム的。**雨**　二画目受け変化、末画から**丹**に連綿。**峰**　旁〝丰〟脈絡注意。**鶴唳多**、**鶴**　一般形。**唳**　行書体で**多**へ連綿。末画直線味で締める。

B

高橋香樹会長書

先月は連綿線を多用した作としたが、今回は単体作とし、細線を適宜用いました。しかし、意連綿を常に意識し、行の流れにも意を用いました。「**松**」はこの形隷書にあります。「**聲**」の草書は古典に数多くあり、「**鶴**」は「**雀**」か「**鸛**」でも可。字典にて確認したい。墨継ぎは「**静**」と「**鶴**」。

訳…霜が碧い谷川におり、松風の音が静かにひびいている。にわかに雨になり、峰々に鶴の鳴き声がする。

予告（九月二十二日締切）　**衆鳥高飛盡　孤雲獨去閑　相看兩不厭　只有敬亭山**（李白）

◆**注　意**　裏表紙の昇試規定を参照のこと。

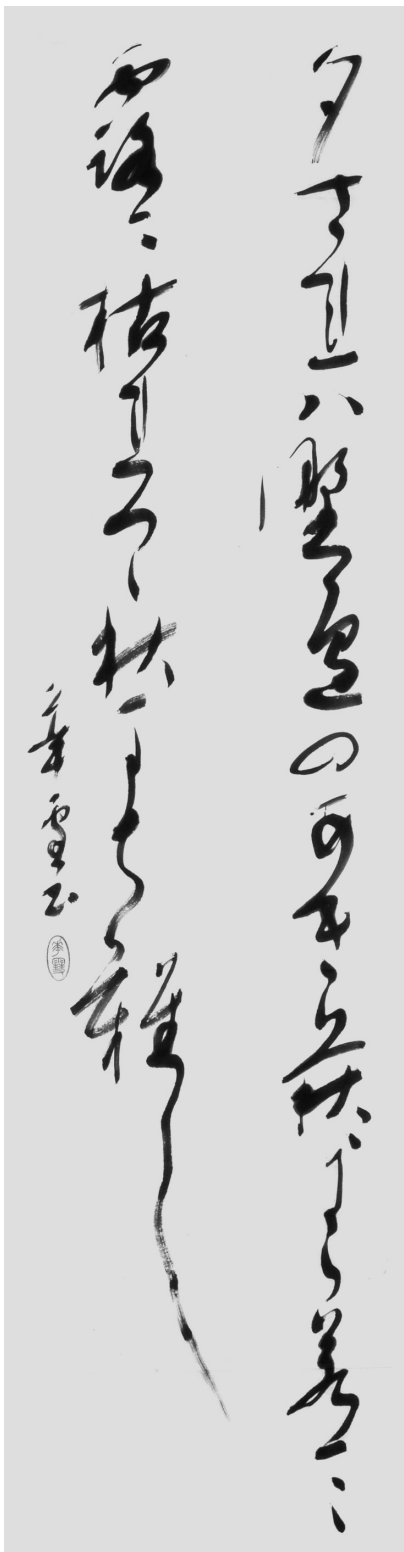
八〇〇号記念昇試第一部かな課題　（八月二十二日締切）

A

平岡華雪先生書

夕されば野辺の秋萩うら若み露に枯れつゝ秋待ち難し（訓読万葉集　柿本朝臣人麿）

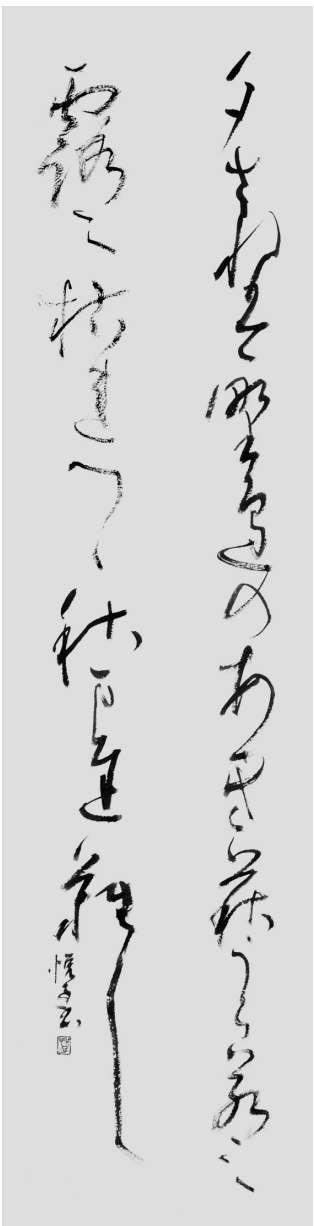
夕さ連八野邊のあき萩うら若三露二枯連つゝ秋万ち難し



B

長野悦子先生書

夕され盤野渡邊のあ幾萩うら若三露二枯連つ、秋万遅難し



学び方

二行が接近して中央に寄りすぎないように。墨継ぎは二行目の「秋」で継ぎ、文字の大小に留意して書く。

意味

夕方になると野辺の秋萩の枝先の小さな葉が露によって色付き枯れる。秋が待ちきれないように。

学び方

柿本朝臣人麿

（生没年は不明）天智天皇から文武天皇のころの人。はじめ舎人として出仕し、のちに地方官ともなっているようだが、六位以下で終わっているらしい。持統・文武朝に盛んに作歌し、そのけんらんたる修辞・卓越した表現技巧・荘重雄大な格調・沈痛重厚な作風は、万葉最盛期を代表する集中第一の歌人ならではのものである。

予告（九月二十二日締切）　**天の原ふりさけみれば春日なる三笠の山にいでし月かも（安倍仲麿）**

◆**注　意**　裏表紙の昇試規定を参照のこと。

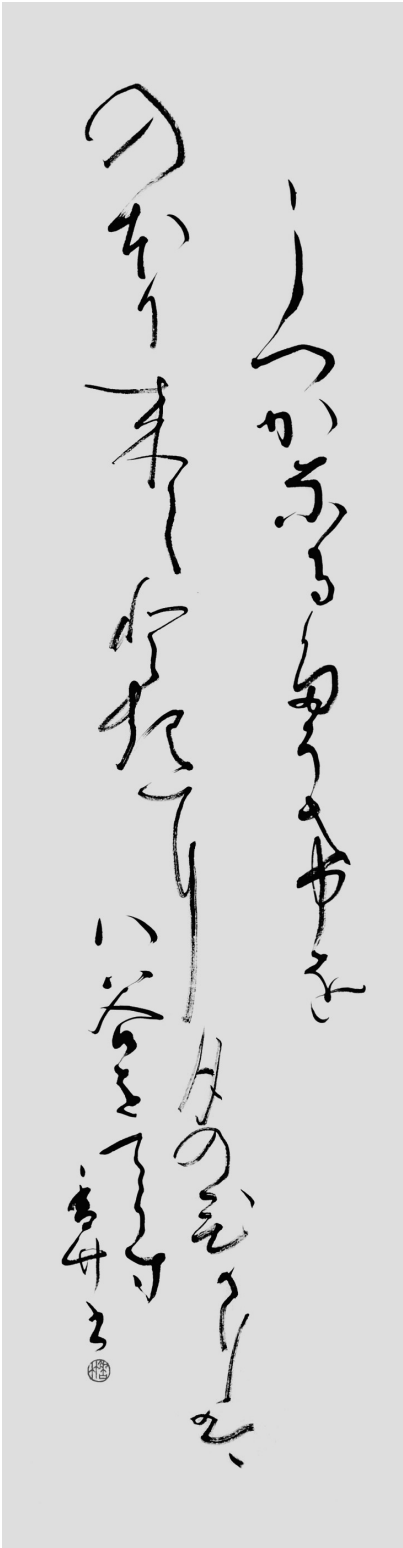
八〇〇号記念昇試第一部随意参考

小暮菘華先生書

蒼苔翠竹汝所好　白石清泉吾故郷（柯九思）
蒼苔翠竹汝が好む所、白石清泉吾が故郷。

訳…青は苔にみどりの竹、これは汝が愛する所である。白い石に清き水、これは吾が故郷ともする所である。

青柳香竹先生書

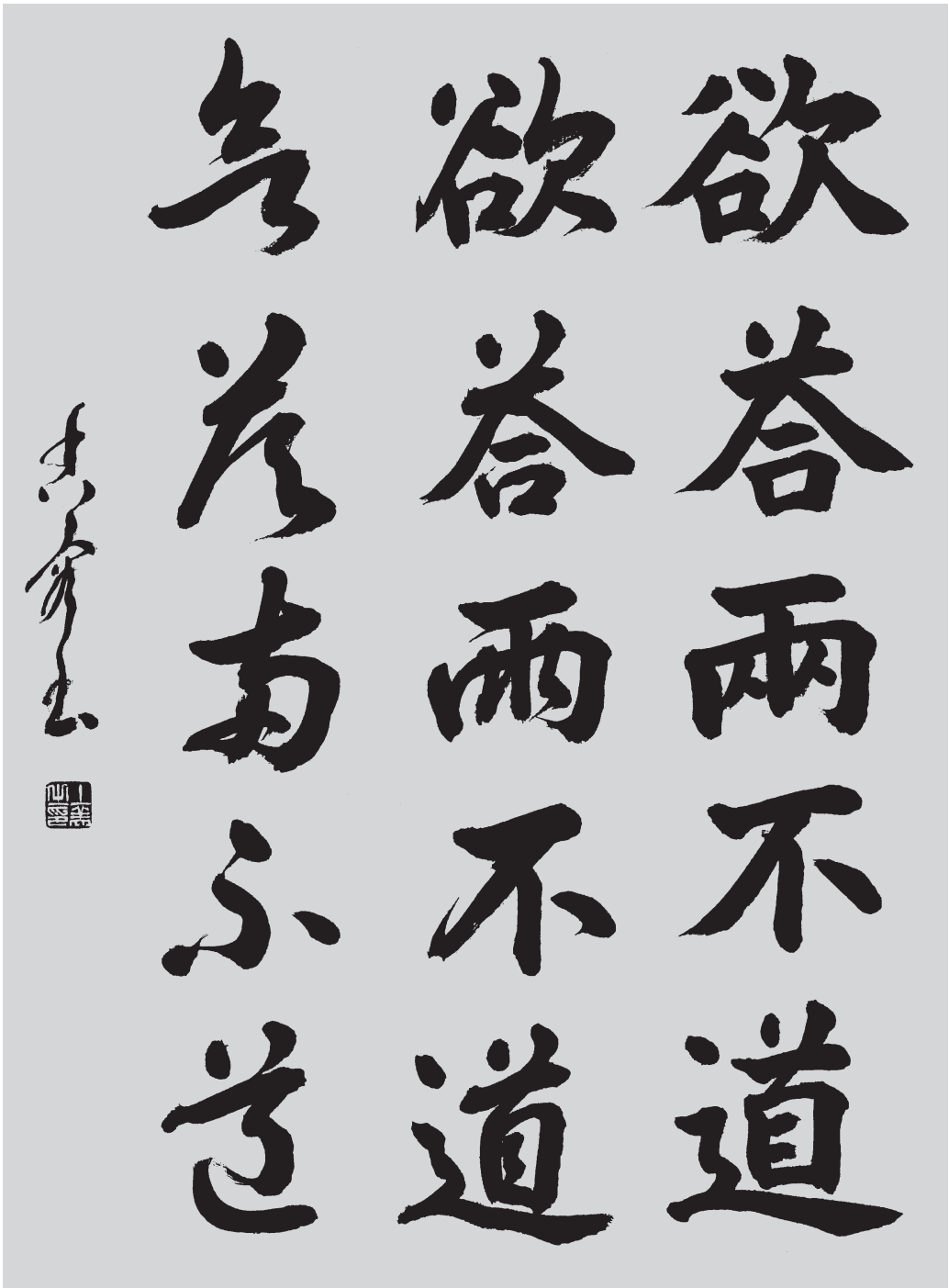


しづかなる峠をのぼり来しときに月のひかりは八谷をてらす（斎藤茂吉）
しつか奈る多う希を乃本り来し登起耳月の飛可り盤八谷をてら寸

◆注 意　裏表紙の昇試規定を参照のこと。自由作品可。臨書可。

八〇〇号記念昇試第二部漢字課題　（八月二十二日締切）

川上香蓉先生書

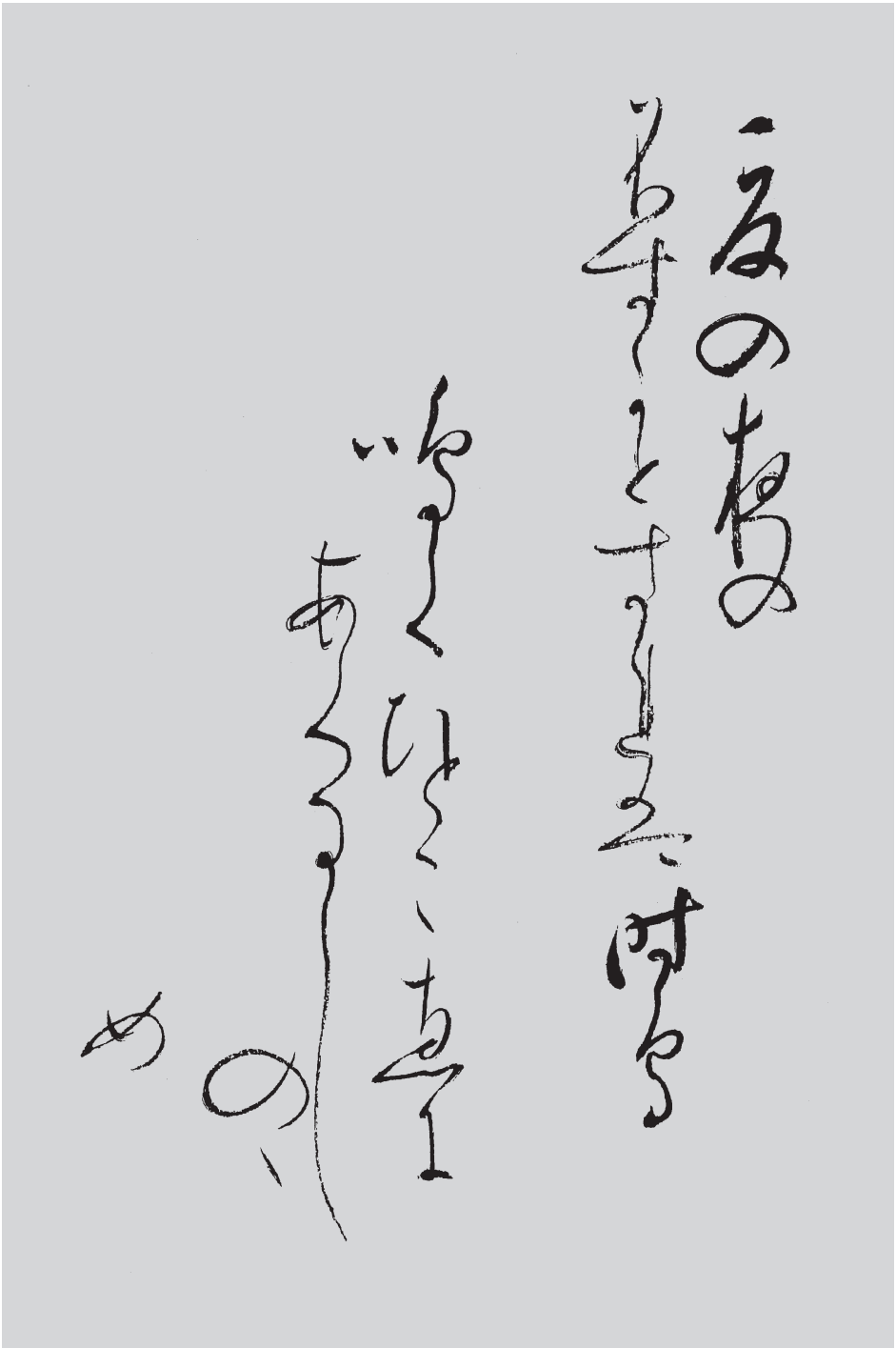


欲答兩不道（良寛）
答えんと欲して両ながら道わず

訳…二人ながら答えようとして云わず

◆注 意　裏表紙の昇試規定を参照のこと。

八〇〇号記念昇試第二部かな課題　（八月二十二日締切）

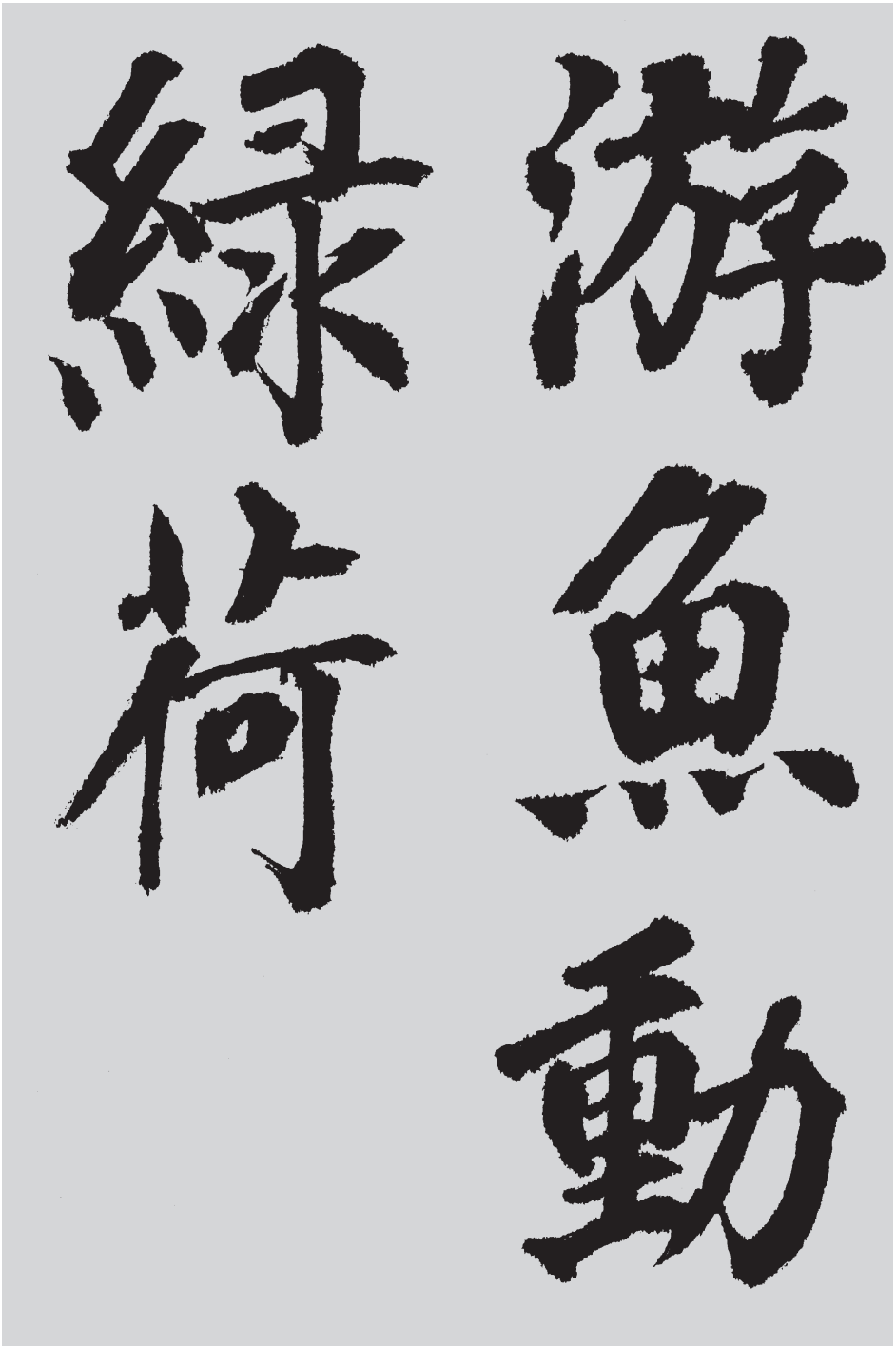


高塚竹堂先生書

夏の夜のふすかとすればほとゝぎすなくひとこゑに明くるしのゝめ（古今和歌集　紀貫之）

◆**注　意**　裏表紙の昇試規定を参照のこと。

八〇〇号記念昇試第三部漢字課題　（八月二十二日締切）



平岡華雪先生書

游魚緑荷を動かす（陸游）

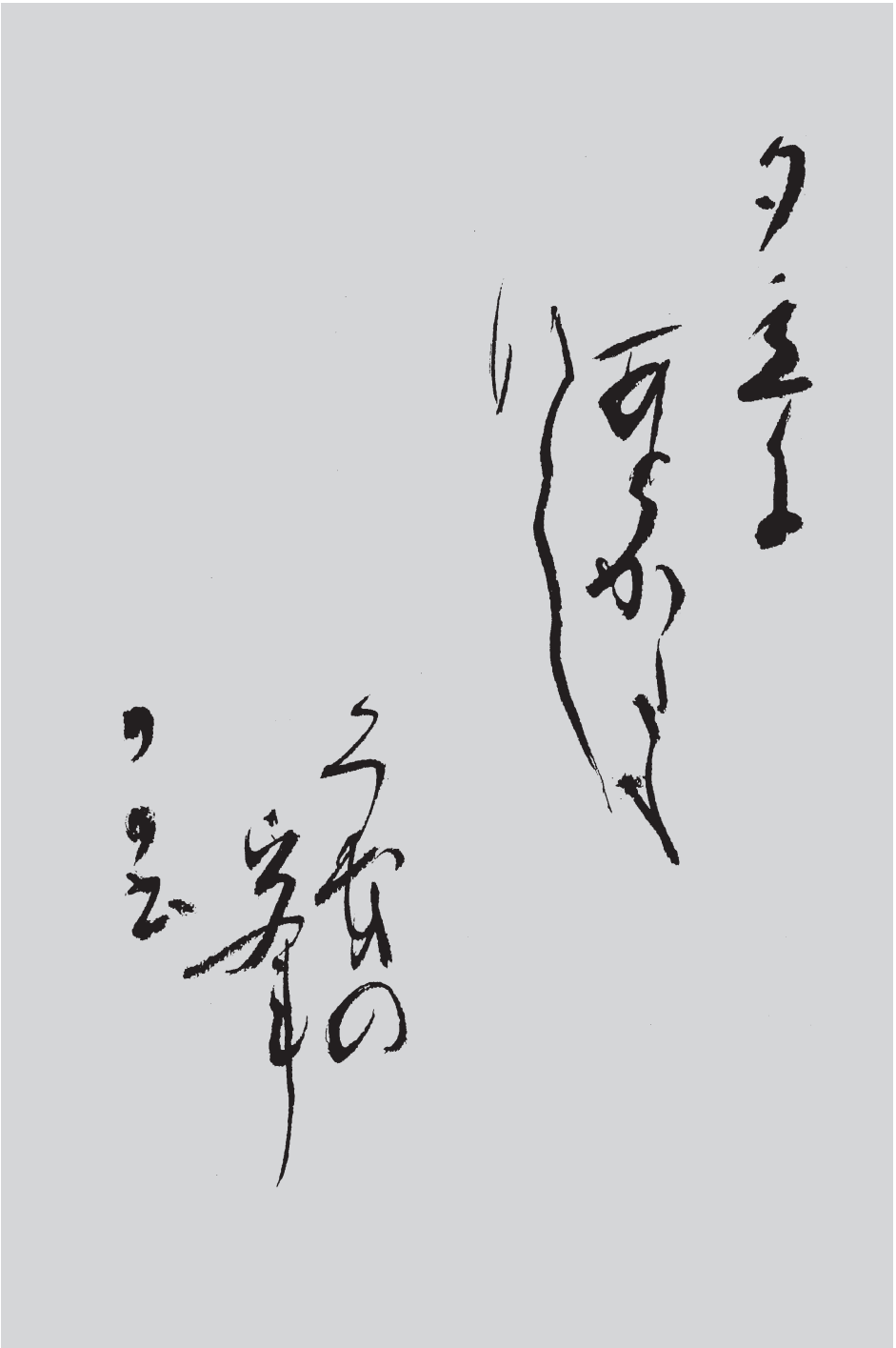
訳…池の魚が蓮の葉を動かしてたわむれている。

〈的確な用筆で〉

「游」の三水偏、「魚」の連火、「緑」の糸偏、これらの部首は形よりは用筆上のポイントです。この用筆で失敗すると、その字形にも影響します。用筆に充分習熟を――。

◆注　意　裏表紙の昇試規定を参照のこと。

八〇〇号記念昇試第三部かな課題　（八月二十二日締切）



平岡華雪先生書

夕立にあとかたもなし雲の峰
夕立尓あとか多も那し久茂の峯

〈全体構成からみるポイント〉
まず行間の余白に注目、特に右群の一～二行の間と、二～三行の間の広さが違っています。二、三行は小さい群をつくり、一行目とひびき合っています。さらに、全体的には、一～三行で右群をつくり、左下の左群と照応しています。特に、右群の右下流しの「し」に対し、左群「峯」の長末画は、左下へのびやかに流し、この二画の照応はこの作品づくりのポイントの一つ。

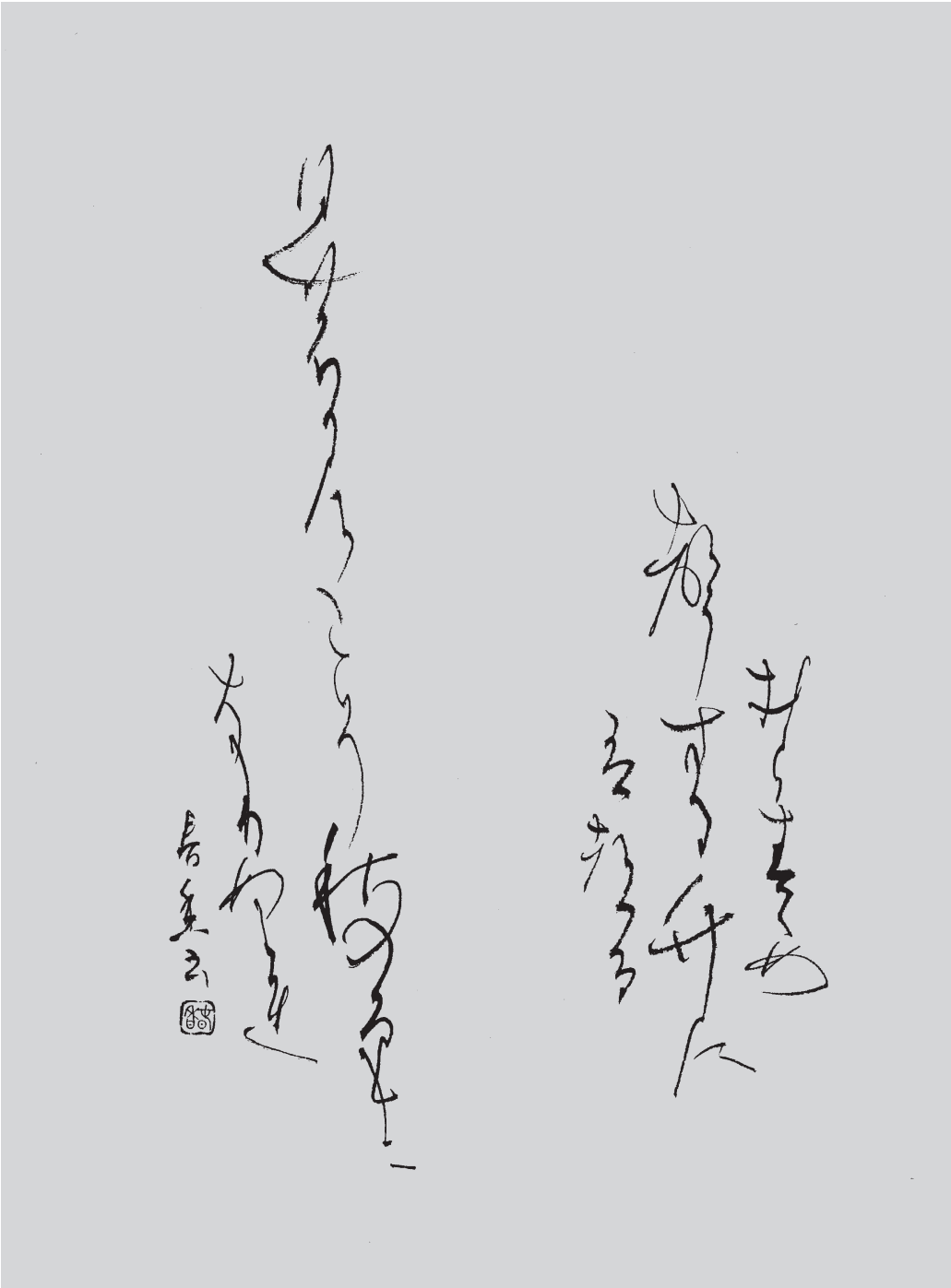
◆注 意　裏表紙の昇試規定を参照のこと。

戸張丘邨先生書

山情因月甚　詩語入秋高（張司業）
山情月に因って甚しく、詩語秋に入って高し。

訳…山の風情は月に因って深く感じ、詩のことばは秋となって一しお高くなった。

◆注 意　裏表紙の昇試規定を参照のこと。自由作品可。臨書可。



石原春香先生書

むらすゞめこゑする竹にうつる日のかげこそ秋の色になりぬれ（風雅和歌集　永福門院）

むら春〻め聲する竹に有都る日農可介こ曽秋の色二奈利ぬ連

◆注 意　裏表紙の昇試規定を参照のこと。自由作品可。臨書可。

八〇〇号記念硬筆部昇試課題　（八月二十二日締切）

正教授　創作部門（自運作品、自由形式、硬筆用紙使用）で出品。二名の審査員による合計点数で優秀作品掲載。審査料一、〇〇〇円

路川千曄先生書

課題1（初段以上）

桃は掌にたっぷりと重く、柔毛に
つつまれた肌は繊細なやわらかさ
だった。むくと、あたりに甘い果汁の
匂いがゆたかにただよった。

湯澤春翠先生書

課題2（初段格以下）

今まで花火があがっていた暗い
空に、光っている星があったことに
気づく。アンタレスだった。

課題1（初段以上）

桃は掌にたっぷりと重く、柔毛（にこげ）につつまれた肌（はだ）は繊細なやわらかさだった。むくと、あたりに甘い果汁（かじゅう）の匂（にお）いがゆたかにただよった。

「夏の終り」　瀬戸内寂聴

◆注意

(1) 自分の段級に合った課題を選択。
(2) ペンまたはボールペン（黒色）を使用のこと。青インクは不可。
(3) 段級欄は本人が記入（色は黒）
(4) はじめて出品される方は私製の紙（3×4㎝位に）次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
(5) 会員は無料・会員外は四三〇円
(6) 昇試規定は裏表紙を参照の事。

課題2（初段格以下）

今まで花火があがっていた暗い空に、光っている星があったことに気づく。アンタレスだった。

「鎌倉日記」　三木　卓